



●司会 **瀧原 圭子**  
大阪大学キャンパスライフ健康支援センター教授

●出席者 **佐藤 徹**  
杏林大学病院  
循環器内科教授

**田村 雄一**  
国際医療福祉大学医学部  
循環器内科准教授

**花岡 正幸**  
信州大学医学部  
内科学第一教室(呼吸器・感染症・アレルギー内科)教授

(五十音順)



# 肺高血圧症の境界域 —各群における 鑑別・診断の難しさ—

欧米の肺高血圧症(PH)に関するガイドラインでは、PH症例はPH専門施設に送り集約化することが推奨されている。しかし日本にはフランスのPHセンターのようなPH専門施設は少なく、多くのPH症例が地域の一般病院など非専門施設で治療されているのが現状である。このため、臨床現場ではPHと肺動脈性肺高血圧症(PAH)の区別が十分になされておらず、PHという疾患の鑑別・診断の難しさがさらにその傾向に拍車をかけていると考えられる。そこでニースで開催された第6回ワールドシンポジウムに参加されたエキスパートの先生方をお招きし、PHの境界域とその鑑別・診断ポイントについて最新情報をふまえてディスカッションいただいた。